

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077700120		
法人名	有限会社トコトコ		
事業所名	グループホームけやき		
所在地	福岡県三井郡大刀洗町山隈23番地 (電話) 0942-77-4801		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 1 日	評価結果確定日	令和 5 年 1 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームけやきは「受容・許容・寛容」を理念に掲げ、利用者主体のサービスを心がけている。庭には、見て楽しみ、食して楽しむ果樹の木や花などを植え季節感が感じられるように工夫している。コロナ禍において家族の面会が今までのように直接できない日々もあったが、利用者の状態をスタッフが家族へ伝えるなどして、家族との繋がりが途切れないように支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 4 年 11 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、自然に囲まれた木造の平屋建ての建物で、敷地内に有料老人ホームとデイサービスが隣接している。庭の果実や花の木が季節感を感じさせ、気候が良い時期は、庭で外気浴やおやつを食べる等して楽しむことができる。職員間で小まめに話し合い、統一した介護ができるように心がけている。人生の先輩である利用者から学ぶ姿勢を持ち、寄り添う介護を目指している事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示しており、職員間の申し送り時には復唱している。	「受容・許容・寛容」という事業所独自の理念がある。玄関と事務所に理念を掲示して、朝礼や申し送りで唱和している。地域の方に出会ったら率先して挨拶をする等、地域との関わりをもつように心がけている。全体会議や申し送りで理念を共有し、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は中学生の職業体験や町内の獅子舞等、交流があったが、この2年はコロナ禍であり、ほとんど地域との交流ができていない状態である。	コロナ禍前は地域の清掃活動や夏祭りに参加したり、保育園児や地域の獅子舞の訪問があったが、現在は行われていない。介護福祉専門学校の実習受け入れをしている。散歩で地域の方に出会ったら率先して挨拶をする等、関わりをもつように心がけている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が町の認知症啓発活動に以前は参加していたが、コロナ禍で現在活動ができていない状態である。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により対面での会議を開催していない。代わりに文書にて、日々の活動や行事、事故報告等をメンバーに郵送している。	2ヶ月に1回、サービスの状況や職員研修の内容、評価の取り組み状況等について書面で開催している。構成員は利用者家族や地域包括支援センター、町健康福祉課、民生委員、区長、隣組長である。意見や助言を記載してもらって用紙を添付し、サービス向上に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課とは介護認定の更新手続きや入所関係の手続きなどで連携を持ち、情報交換をしている。	施設長が区役所の窓口で、事故報告や事業所の状況等、報告・連絡・相談を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの理念、運営者の方針で禁止としている。夜間以外は玄関の施錠もしていない。現在は対象者がいないが、もし今後行う場合は必ず決められた手順に従い行うようにする。	日中、玄関の施錠はせず、チャイムを設置している。職員は利用者の外出傾向を把握し、外に出たい気持ちがある時は付き添い、玄関や庭に出ている。年2回、身体拘束の研修を実施しており、月に1回の全体会議で身体拘束に関する話し合いをしている。テキストやマニュアルは準備されている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	年に2回、内部研修にて、虐待防止、身体拘束、人権等について学習の機会を持っている。ケア会議の中で事例等を検討している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回程度は成年後見制度についての内部研修を行い、理解を深めるようにしている。場合によってはご家族に制度の説明や助言を行っている。	契約時や必要に応じて、家族に権利擁護に関する制度の説明をしている。年1回、成年後見制度についての内部研修が実施されている。研修記録が保管されていなかった。	研修を実施した際は、研修記録を残してほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には説明を行い、理解を得ている。法改正時・物価上昇等による料金改定時にはあらかじめ書面にて必要性を通知し、理解・同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、直接ご家族等から申し出があった場合には、聞き取りを行い、反映できるものは迅速に反映するようにしている。	日常的に利用者の要望を聴くように心がけている。塗り絵やパズルがしたいとの希望に応えたり、本人が食べたいと要望があったものを家族の協力を得て用意する等、可能な限り対応している。家族の来訪時に要望等を聴くように声かけをしている。来訪できない家族には、電話で日頃の状況を報告し、要望等を確認するようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や職員会議（概ね月1回）時に職員の意見や提案を聴く機会を設け、出来る限り反映させている。	管理者や施設長は、全体会議や申し送り時のほか、必要に応じて個別で職員の意見を聴いている。利用者のケアや業務内容について、職員の意見を取り入れて、遅出の時間帯を変更したり、利用者のパットの種類や交換時間の見直し等をしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員自身や家庭の事情により、勤務形態等相談に応じ、できるだけ馴染みのスタッフが長く働けるようにしている。処遇改善加算等の分配では勤務年数や資格取得状況に応じて、ステップアップできるような仕組みを作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>採用に当たっては性別や年齢等は問わず、職務への適正や条件等を勘案して決定している。定年はあるが、それを越えても本人の希望に応じ無理のない勤務ができるように配慮している。</p>	<p>採用にあたっては、年齢や性別等を理由に採用対象から排除していない。法人内の他事業所への異動希望等は、可能な範囲で対応している。定年はあるが、希望あれば勤務の継続は可能である。資格取得希望者には助成金制度があり、勤務の配慮をする等、職員が働きやすい環境づくりに努めている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部研修に参加してもらったり（コロナ禍により、中止あり）、内部研修にて教育の機会を提供している。</p>	<p>人権について、内部研修を実施している。テキストや研修記録が整備されている。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数や資格取得者などを考慮しながら、外部研修を受けてもらうようになっているが、コロナ禍では対面の研修参加が難しく、ここ2年はあまり参加ができていない。毎月内部研修を行い、福祉・医療に関する研修を開催している。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍以前は町や地域包括支援センターが実施する会合等に参加したが、対面での交流が難しく、現在は行っていない。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所1か月間は気づいたことや必要な支援の内容等をシートにまとめ、情報収集をするようにしている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所の相談時や利用開始時には家族の思いを傾聴し、利用者の状況、家族のニーズを把握するようにしている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があれば応じる。または、こちらから提案し、必要があればサービス導入の支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔ながらの事柄（干し柿・保存食の作り方など）を尋ね、職員が教わるというようなお互い助け合うような関係づくりや会話をするようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族・職員それぞれにできる役割があるので、補い合いながら、一緒にご利用者を支えていくような関係づくりができるよう努力している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以降はごく親しい家族以外の面会はお断りしている。外泊なども制限をしており、途切れている状態。手紙や電話など取りつぎ、出来るだけ関係が途切れないようにしている。	利用開始時に、利用者や家族から聴き取り、馴染みの人や場所について情報を得ている。家族や知人とのつながりが継続できるように、電話や手紙での連絡を支援している。コロナ禍前は知人や近所の人が会いに来られたり、馴染みの美容室に行ったり、病院受診時に家族と一緒に馴染みの場所での買い物をしていた。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や考え方を尊重しながら、一緒にレクリエーションに参加してもらうなどしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は入院や死亡によるものがほとんどであるが、以前はお見舞いや葬儀への参加などしていた。現在はコロナ禍にて、関わるのが難しいことが多い。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや意向の把握に努め、本人から聞くことができない場合は、行動や表現からニーズの把握に努めている。	職員は、日常生活の中での会話や表情から利用者の思いを汲み取り、意思疎通の困難な利用者には、ジェスチャーや筆談で情報を得る等、意向の把握に努めている。また、申し送りの時に伝えたり、申し送りノートに記入して職員間で情報の共有をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係機関から生活歴等を聞き取り、アセスメントを行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活リズムを把握しているが、少しずつ変わっていく変化も見落とさないようにしている。それらを職員間で共有するようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や担当職員の評価などを確認し、介護計画に反映するようにしている。	利用者や家族、職員、医師等の意見を反映させた介護計画を作成している。見直しは6カ月毎に行い、本人や家族の署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記載をするようにしている。職員会議で課題を話し、情報共有をしながら実践している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は家族の祝い事の参加に付き添う支援などを行っていたが、現在はコロナ禍であり困難である。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は可能なご利用者については地域の美容室やお店を利用するなどしていたが、現在は重度化が進み訪問サービスを導入している。地域の人やボランティアを受け入れていたが、現在はコロナ禍で実施できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の疾患や症状に応じて、訪問診療を導入している。必ず訪問診療を契約してもらうのではなく、ご本人やご家族の希望に応じ通院もできるようにしている。かかりつけ医療機関と連携し、情報交換を行っている。	利用開始時にかかりつけ医について確認を行っている。利用前からのかかりつけ医を希望する場合や専門医受診時は家族が受診支援を行っているが、緊急時や家族支援が困難な時は、職員が同行して受診を行い、受診結果を家族と情報共有し、適切な医療を受けられるように支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師・法人内の看護師等と連携しながら、適切な支援が受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の情報交換を双方で行うようにしている。ご本人やご家族だけでなく、医療機関より早期退院の相談があった際はできるだけ受け入れるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方は入居時からご本人やご家族にその時点での希望や事業所としてできることなどを説明し、同意を得ている。実際にその時期が来た場合は、ご本人やご家族・主治医・スタッフで、意見交換し指針などを共有している。	重度化、看取り介護の指針があり、利用開始時に説明をしている。重度化した場合や看取り介護が必要になった時は、医師や家族、職員等が話し合い、意向の確認や方針の説明をしている。状態の変化がある時は、その都度、情報を共有して支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、マニュアルを作成して確認している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、事業所で行っている。そのうち1回は消防署の指導を受けて行っている。事業所単独ではなく、法人内事業所と共同で訓練を実施し、避難の誘導方法などを共有している。	災害マニュアルを作成している。年2回、夜間と日中の想定で計画しており、今年度も実施予定である。非常用食料や飲料水、備品は隣接する法人内事業所に用意している。	災害時に孤立した場合を想定して、事業所内に食料品や備品の準備をお願いしたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけプライバシーを損ねないように配慮している。時折、不適切な場合は職員会議等で議題にあげるなどし、対応している。	職員採用時に、利用者の人格の尊重やプライバシーの確保について話をしている。大きい声を出さずに耳元で声かけしたり、馴れ馴れしくならないように配慮している。内部研修やミーティング時に職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりした時間帯に思いを尋ねたり、その場その場の意向を尊重するようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には日課や食事の時間は決まっているが、ご利用者の状況や体調、気分にあわせて時間をずらすなどしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が整髪や整容を心がけ、ご利用者ができていないところは手直ししている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は現在、黙食となっている。準備や片付けは重度化が進み、難しい状態である。職員が言葉をかけ、好みなどを聞いたりしている。	好みのメニュー等を聴き取り、敬老会の時に希望されたちらし寿司を提供したり、干し柿を作る等、食事が楽しみになるよう工夫している。事業所の庭で採れたミカンやびわ、さくらんぼをおやつの際に提供している。一人ひとりに合った食事形態で提供している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつもより水分や食事の摂取が少ない際には記録している。水分摂取や栄養補給のためにコーヒーや牛乳なども提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。異常がある際は、受診や往診を受けるようにしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣等を考慮し、利用者の状態に応じた支援を行っている。	職員は利用者一人ひとりのサインを把握し、可能な限りトイレで排泄ができるように支援している。利用者が失禁した際は、小声で声かけする等、羞恥心や不安を軽減するための配慮をしながら対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄確認で状態を把握している。水分摂取や体操などの運動を取り入れ、予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	夜間の入浴は難しいのが現状である。基本的に暖かい午後を入浴にあてている。一応曜日は決まっているが、体調や気分に応じ柔軟に変更している。最低週2回は入浴をすることができるようにしている。	週3回、入浴日を設定しているが、希望がある時は入浴ができる体制を整えている。入浴を望まない利用者に対しては、順番を変えたり、翌日の入浴へ変更する等、臨機応変に対応している。ゆず風呂等、入浴が楽しめるような工夫もしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律の午睡時間ではなく、それぞれの体力や気分に合わせて行っている。休息しない方もいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれの用法・用量について薬剤情報などを活用して理解している、服薬支援を行い、症状の変化等の確認に努めている。異常時は医療機関に報告し、対応をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化により、外出や土いじり等が難しいが、なるべく外を見るなど気分転換ができるようにしている。 嗜好品については希望があれば家族から預かり、提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍と重度化で難しいのが現状である。	コロナ禍前は買い物や行き付けの美容室に行ったり、誕生日には外食したり、花を見たいと希望があれば一緒に行く等していた。現在は、週1回程度、事業所敷地内を散歩する等、できるだけ利用者の希望に沿って出かけられるように支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化によりご本人が金銭に関心がなかったり、家族に任せたいという方が多く、支援にいたっていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。 手紙などが来た場合は「返事を書いてみましょう」などと声をかけ、預かって出す・渡すなどしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの環境整備を行い、ご利用者が動きやすいようにしている。 季節に応じた飾りや植物を飾ったりしている。	居間には明かり取りの天窓があり、採光にも気を配っている。白の壁面は清潔感があり、利用者と一緒に作成した折り紙や貼り絵、クリスマス作品、行事の写真等の季節感のある飾りを設置する等、居心地良く過ごせるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中にも「自分の場所」をつくり、リラックスして過ごすことができるようにしている。 一人で過ごしたい人、他者とおしゃべりした人などそれぞれに提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人・ご家族の要望を反映できるようにしている。仏壇の持ち込みや思い出の家具など、持ち込みに制限をしていない。	居室には、タンスや写真、手作りのぬいぐるみ、ガラスケースに入った人形等、利用者の馴染みの物が持ち込まれており、利用者が安心して暮らせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線上には、ほぼ手すりがあり、バリアフリーである。 敢えての段差（小上がり）を設置し、ちょっと座ることもできるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
			○	③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
			○	③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		